令和６年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立第六中学校

校長　鵜飼 康成

１　学校教育目標

・自ら学び目標をもって努力しよう　・互いに尊重し助け合おう　・困難に耐え心と体を鍛えよう

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・確かな学力を身に付けさせる学校 ・心身ともに健やかな生徒を育てる学校 ・生徒、保護者、地域から信頼される学校
○児童・生徒像	・目標をもち、自ら進んで学習に取り組む生徒 ・礼儀や思いやりを大切にし、規律ある行動ができる生徒 ・心身ともに健康で、何事にも一生懸命に取り組む生徒
○教師像	・授業改善に向け、日々、研究・実践に努める教師 ・生徒一人一人を理解し、生徒の健全育成に努める教師 ・教育公務員としての自覚と誇りをもって職務に励む教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○学校について

〔よさ〕日々の教育活動が、落ち着いた雰囲気の中で継続して行われている。

〔課題〕「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」特に「学びに向かう力、人間力等」をさらに高める教育活動を意図的・計画的に推進する。

○生徒について

〔よさ〕生徒の大多数が、自らの所属する集団をより良い集団にするために考え、行動しようとしている。

〔課題〕学習や諸活動において、現状に満足せずより高い目標をもって自ら挑戦する姿勢・態度を養う。

○教師について

〔よさ〕自他の授業改善に向け努力するとともに、学校全体で協力して課題解決しようとする集団である。

〔課題〕自校やその他の教育課題を明確にし、授業力向上・生活指導・教育相談を中心とした研鑽を組織的に共通実践していく体制を構築する。

○保護者・地域について

〔よさ〕保護者・地域の方は、共に本校の卒業生が多く、学校の教育活動を理解し協力的である。

〔課題〕生徒のよさ・課題などについて共有し、不測の事態にも持続可能できることを考え、保護者・地域と連携して育てていく体制を見直し進める。

【前年度の成果と課題】

〔成果〕「授業が分かる」「授業が楽しい」「勉強は大切だ」と感じている生徒が前年度並み、又は増加した。
不登校生徒について、組織的に対応し、関係諸機関との連携を推進することができた。

〔課題〕学んだ事柄を使って、論理的に物事を考え、表現できる力を身に付けさせる。

不登校生徒について、校内支援委員会を軸に関係諸機関とも連携し、多様化する個々の状況に合わせた支援体制をさらに充実させる。

4　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	生徒の健全育成	○	○	○	○	○
3	関係小学校や家庭・地域との連携	○	○	○	○	○
4						

5　令和６年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

A　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
主体的に学習に取り組む生徒の育成	令和６年度区調査通過率 65% 年度末到達度確認テスト正答率 60%	区調査通過率 61.4% 年度末到達度確認テスト正答率 56.9%（２月末実施予定）	区調査では、達成には 3.6%下回った。 到達度確認テスト対策を進める。	△

B　目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	「勉強が好き」増加作戦	全教科	通年	・授業改善（授業力向上） ①授業観察実施〔年３回〕(管理職の観察（指導助言） ②年次研修　授業観察実施〔年３回〕（管理職・指導教員の観察（指導助言） ③校内集中研究授業　選出教員による実施〔年１回〕(管理職・全教員の観察) 「六中授業観察シート」を活用し、振り返り・協議を実施 ④教科指導専門員･学力定着指導員との指導助言の方向性の共有	・生徒アンケート ・振り返りシート ・単元テスト等による理解度の確認 **・「六中授業観察シート」による確認**	・「授業が分かる」85%以上 ・「授業が楽しい」80%以上 ・「授業で振り返りをしている」70%以上 ・「分かりやすい説明を心がけている」60%以上	生徒学習アンケート結果と前年度比 ・「授業が分かる」83.6%　1.5%増加 ・「授業が楽しい」78.2%　2.4%減少 ・「授業で振り返りをしている」60.1%　8.6%増加 ・「分かりやすい説明を心がけている」68.7%　0.5%増加	・４項目中１項目が目標値を超えた。 ・授業開始時「ねらい」を示し、学習の見通しをもたせる項目が 10.8%増加となり浸透してきている。 ・「勉強は大切だ」92.3%の肯定的回答を活かす取組を継続する。	○

2 継続	家庭学習の充実	1，2年	通年	主体的な家庭学習の定着を目指す ・「家庭学習ガイドブック」の活用による家庭学習の取り組み方の指導、保護者会等での家庭への啓発 ・定期考査前の「学習計画表」の作成 ・継続的な家庭学習の指導	・生徒アンケート ・自主学習ノート ・デイリーライフ（生活記録）での確認 ・個々への指導	・「家庭学習での勉強内容、方法がわかる」70%以上 ・家庭学習１日1 時間以上 50%以上 ・提出物 90%以上	生徒学習アンケート結果と前年度比 ・「家庭学習での勉強内容、方法が分かる」56.9%　5.4%増加 ・「家庭学習１日１時間以上」56.8%　1.4%減少 ・「宿題をやり遂げている」82.0%　1.2%減少	・家庭学習の進め方は、年度当初や単元ごと又は定期考査前に、プリント資料などで解説・実践を継続的に進める。 ・学習支援が必要な生徒は、補充教室などで個別に対応している。	○
3 継続	放課後補充教室	全生徒、各教科のつまずきのある生徒及び希望生徒	週３回	未習熟な学習内容の解消 ・必要な学習を行う自学自習（ＡＩドリル等の活用） ・個別指導によるつまずきの解消（ＡＩドリル等の活用）	・区学力調査を活用した到達度確認テスト ・定期テスト	・年度末に行う到達度確認テストでの対象生徒の正答率アップ	・年間指導計画どおり、円滑に実施することができた。	・定着度をあげるため、生徒を選出し、より丁寧な学習指導を実施し、効果が上がった。	◎
4 継続	ＩＣＴの活用	全教科及び５教科	通年	分かりやすい授業を行い、生徒個々の学習課題克服に活用 ・デジタル教科書（生徒用） ・Chromebook の活用 ・ＡＩドリルの活用	授業観察	・各教員が学習の単元で２回以上は活用	・教科の特性や授業内容により活用頻度に差はあるが、よく活用できた。	・ＡＩドリルは１１月を活用強化月間とし、活用を広められた。	◎
5 新規	朝読書 朝学習	全生徒	通年	1 日の落ち着いたスタート ・読書（通年） ・スペリングコンテスト（国・数・英）２週間前対策学習プリント、ＡＩドリルの活用 ・実施時期、内容は年間計画に基づく。	・読書記録の実施 ・朝学習プリントは回収 ・ＡＩドリルは結果確認	・全員が朝読書、朝学習に取り組む	・生徒一人一人が目的をよく理解し、朝学習や朝読書に自主的に取り組み、落ち着いた１日の始まりが継続できている。	・図書室の整備を行い、ＰＲ活動も視覚的に行う工夫もしたことで、４月から１２月までの貸し出し冊数が昨年度より、６３７冊増加した。	◎

重点的な取組事項－２	生徒の健全育成

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒が秩序と主体性をもって行動できる学校づくり	生徒アンケートの関連項目で肯定的回答 80%以上	関連項目での肯定的回答は 80%以上である。	秩序ある学校生活、主体性を伸ばす活動ができている。	◎

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的な生活習慣の徹底	ＴＰＯに合わせた言動、チャイム着席、あいさつ等ができる落ち着いた学校の実現	・生徒の内発的な動機から、主体的に校内の環境を整える力を育成する。 ・指導者の考え方から、指導の目的、ねらいを明確にする。	・授業を中心に、学校全体として落ち着いた生活ができた。 ・あいさつ運動や授業態度確立週間の取組が委員会などで行われており、全生徒に浸透している。	・学校生活を振り返り生徒委員会による自治的な活動を課題改善に目指した企画、運営する風土を継続する。	◎
主体的に考え、行動できる生徒の育成	生徒アンケートにおいて、生徒の主体性、達成感に関する項目 80%以上	学級、学年など自らが所属する集団を、より良い集団にするために、生徒会活動等を活性化する。学校行事、学年行事の育成の機会とする。	・生徒アンケートでは、「今の学級をよりよい学級にしたい」78.5%「自分の役割を考え、協力して行動しようとしている」83.4%であり、２項目とも増加した。	・常に考え、よりよい行動を実践する機会を作る。 ・「自分の思いや考えを積極的に話している」68.7%である。	◎
いじめ、不登校への対策	いじめの根絶を目指すと共に、関係諸機関との連携を図ることで不登校生徒の支援	・ＳＮＳ学校ルールの徹底、セーフティ教室など、あらゆる機会に人権を意識した言動を校内で共通実践とする。 ・校内支援委員会の充実、関係諸機関との連携、WEBＱＵの活用により、不登校の未然防止、登校（行動）支援をする。	・ファミリｅルール講座、ＳＯＳの出し方教育などを実施した。より具体的な行動ができるように育成を進めることができた。 ・不登校対策は、校内の特別支援委員会にて個々のケースに応じ対策を立て、外部人材や機関を活用した支援も進めることができた。	・思いやり、規範意識を育てる教育で、保護者アンケート 89.3%が肯定的回答であり継続する。 ・不登校対応は、十分ではなく、外部機関とも連携し、さらに粘り強く継続する	○
道徳教育の推進	各学年で検討した共通の指導案での道徳授業を年２回実施	・道徳教育推進教師を中心とした組織体制をもとに、各学年で指導案を検討し、「考え、議論する道徳」を実施する。 ・道徳授業地区公開講座時の保護者、地域の方の参加を促し、道徳教育の意識を高める。	・Google などのアプリを活用し、視覚的な視点で理解を深める授業を共通実践したことで、生徒・教員間で理解が進められた。 ・協議会では、保護者・地域の方の参加が増加し、意見などの共有ができ、充実できた。	・一人一人の考えなどを伝え、議論を深める活動をさらに授業内に取り入れ、全教育活動をとおした道徳教育を活性化する。	◎

重点的な取組事項－３	関係小学校や家庭・地域との連携

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者・地域から信頼される学校づくり	学校評価アンケートにおける関連項目の肯定的回答 80%以上	関連項目での肯定的回はすべて85%以上である。	・保護者の参観機会の増加、こまめな情報発信や共有が結果につながった。	◎

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携	小学校との合同研修会を年７回実施	・連携校で共通した研究テーマを掲げ、教科別又は柔軟な枠組みで分科会を設定し、授業改善、健全育成に役立つ内容の研修を行う。	・３回予定した研究授業が予定どおり実施できた。新たに研究分科会の組織を工夫したことで、研究テーマに沿う研修が実施できた。	・９年間の学びに一貫性をもたせた実践について、連携校での充実を目標とし、さらに再考していく。	◎
家庭との連携、協力	学校評価アンケートにおける関連項目で肯定的回答 80%以上	学校便り、各種便りやホームページによる学校の情報発信、保護者とのきめ細かい連絡をとおして、保護者と教員の信頼関係を強固にする。	保護者アンケート結果より ・「学校は経営方針や教育活動を保護者会、学校・学校便り等で伝えている」98.5%　昨年度と同数値 ・「保護者は子供のことで教職員に気軽に相談できる」91.1%　3.9%増加	・便り、ＨＰ、Ｈ＆Ｓを利用し、こまめに情報発信、共有した。 ・三者面談、定期連絡などから保護者から気軽に相談できる体制をさらに進める。	◎
地域との連携、協力	地域行事に年１回以上参加する生徒、教員が６割以上	・あいさつ運動、花いっぱい運動、Ｉ組マルシェ、地域運動会、荒川ウォーク、住区まつりなどの参加を呼びかける。 ・地域の方への情報の発信、学校公開をとおして、教育活動への理解を深める。 ・持続可能に実施できるものを協力しながら考えていく。	・「あいさつ運動」を地域・保護者の方にも協力を得て生徒及び教員とともに活動することができた。 ・「校内のペンキ塗り活動」を新たに企画し、地域の方を講師とし活動ができた。 ・「学校は保護者、地域と連携し、教育活動に取り組んでいる」94.9%　6.2%増加	・土曜授業日の「あいさつ運動」を継続していく。 ・特別支援学級（Ｉ組）などの教育活動を通じて、地域との連携した取り組みを広げていく。	◎

６　まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１　学力向上アクションプラン

【成果】年度末到達度確認テストにおいて平均正答率は、国語 69.5%、数学 48.0%、英語 53.3%、３科平均は 57.0%であり、ほぼ目標値 60%となった。学校評価生徒アンケートで「学校の授業が分かる」の肯定的回答は、83.6%であり、昨年度と比較し 1.5%増加した。「学校の授業は楽しい」は 78.2%で、2.4%減少した。また「勉強は大切だ」と感じている生徒は 92.3%で昨年度同様大変高く、令和２年度からの５年間、90%以上を保持しており、成果として以下の理由が考えられる。

○「将来の夢や希望をもっている」〔区調査 74.4%　区平均より 3.3%上〕の結果から、目標の実現のため学習の大切さを感じている生徒が多い。

○生徒で組織する委員会などの活動は、常に自分たちの学校生活の課題に向き合い、挨拶やチャイム着席、学習規律を呼びかける運動などを新規・継続をしている。学習規律の徹底、教室環境の整備、朝読書・朝学習・放課後補充教室の改善が進み、落ち着いた学習環境を整えられたことである。

○校内研究授業の推進として、２月に３名の教員が授業を行い、「第六中授業観察シート」を活用し、実りある意見交換ができた。国語・数学・英語の教科指導専門員による指導、管理職による授業観察（年間３回以上）、教科部会などの各教科教員同士の意見交換、実践例の紹介などを行うことで授業力の向上を目指した。小中連携教育などでも理解を深め、「言語・情報活用・問題解決・特別支援」の４部会に分かれ、生徒が常に考え、意見交換しながら、知識や技能を得て、それらをどのように活用するかという教育活動を学校全体または、連携小学校で進められたことである。

【課題及び解決の方向性】

○国語　長文作成能力の向上を重点として、定着度に応じた課題に取り組ませる。補充教室での個別指導、ＡＩドリル等の活用を促進する。基礎の復讐と繰り返し練習して覚えることを基本に、特に「書くこと」の指導「漢字の読み、書き」において継続して実施する。

○数学　少人数による指導体制の利点を活かし、習熟度に応じたワークシート、教材・タブレット端末による学習アプリを効果的に活用し、基礎的な知識の定着を目指し、機会を捉えながらさかのぼった個別指導をしていく。

○英語　「読む・書く」ことに課題がみられる。「聞く・話す」ことだけではなく、新出単語を繰り返し発音することや、定着状況を把握するため単語・単元テストを随時実施することで、授業又は補充教室を改善工夫し個別指導も重点的に行う。

○学習の見通しをもたせることや、分かる喜びを多く体験させる。日々の宿題や長期休業中の宿題などについて、学習効果を高める内容であるかを見極め、学ぶことに興味関心をもたせ、自らの学習を意欲的に粘り強く取り組める力を育成する。分かる、できる喜びを体験する活動を増やす。

○授業開始時の「ねらい」終了時の「振り返り」活動が、昨年度と比較し、「ねらい」10.8%「振り返り」8.6% 上昇したのでさらに継続させる。

○「家庭学習ガイドブック」（本校作成）の活用、単元ごと又は定期考査前に、プリント資料などで解説・実践を継続的に進め、家庭学習の定着を高める。

重点的な取組事項－２　生徒の健全育成

【成果】「生徒が秩序と主体性をもって行動できる学校づくり」を目指してきた結果、「学校に行くのが楽しい」83.3%、「今の学級をよりよい学級にしたい」78.5%、「自分の役割を考え、協力して行動しようとしている」83.4%となり、大きな成果があり以下の理由が考えられる。

○自発的な生徒会活動、道徳授業・行事などの充実をとおして、自らの所属する集団をよりよくしようとする考え方が浸透し、継続している。

○授業や学級活動などのあらゆる場面で、互いを認め、励ます場を意図的に設定している。

○校内支援委員会（週１回開催）で、いじめ・不登校や特別な支援を要する生徒について支援の方向性を検討し、組織的な対応を継続している。難しい案件については、ＳＳＷがコーディネーターとして関係諸機関と連携し粘り強く円滑にできている。

○別室登校やその他の関係機関と、週１回又は月１回の報告書を基に生徒への支援状況を把握し、窓口になる教員との連携を構築している。

【課題及び解決の方向性】学校評価生徒アンケート「日常生活の中で、自分の思いや考えを積極的に話している」68.7%から、将来的な視点からも人間関係を上手につくり、思いや考えを伝え、さらにそれを調整し、進める力を身に付けさせたい。しかし、心身の気力・体力がなく、無気力や学力不振などの不登校生徒が増加傾向である。慢性的に、体調不良を訴える生徒もいるので、この解決ために、以下のことに取り組む。

〇ＷｅｂＱＵなども活用し、学級や学校への不適応傾向のある生徒をいち早く発見し、要因を探り支援の方向性を共有し、迅速かつ組織的に行う。

〇ふれあい月間（年３回）のアンケート結果を活用し、早期・継続対応を組織的に行う。

〇自力解決する力も備えさせる、生徒・保護者の考えを確認し、支援の方向を定め必要に応じて教育相談関係の人員や関係諸機関と連携する。

重点的な取組事項－３　関係小学校や家庭・地域との連携

【成果】保護者・地域から信頼される学校作りを目指してきた結果、保護者、地域の方による学校評価アンケートでは、平均すると１４ 項目ですべて 85%以上、10 項目で 90%以上の高い評価をいただいた。保護者、地域の方には本校の教育活動へのご理解ご協力をいただけたと考え、一定の成果があったことは、以下の理由によると考える。

〇学校だより、学年だより、保健だよりなどやホームページ・C４th Home&School をとおして、学校の情報を随時発信した。また、行事では多くの方に生徒の活動の様子を見てもらうことができた。それにより、学校がどのような教育方針で教育活動を行っているのか、生徒がどのような活動をしているのかを理解していただいた。

〇年間２回の三者面談の実施により、各家庭と情報の共有ができている。それに加えて、担任を中心とした学年の教員が必要に応じてこまめに連絡をとっていることで「気軽に相談しやすい」という雰囲気ができ、保護者と学校が協力して生徒の健全育成に取り組めた。

〇小中連携の活動は、３回の研究授業を計画どおり実施することができた。今年度は新しく「言語・情報活用・問題解決・特別支援」の４部会に分かれるように工夫し、授業の振り返りや９年間の学び方に一貫性をもたせる共通実践について研究を進めることができ、実りある研修が定着した。

【課題及び解決の方向性】

地域との活動では、誰もが参加しやすく持続可能なものへの見直し、実施を実現させていきたい。保護者が学校活動に気軽に参加できる体制を作っていきたい。そのような機会を通し、さらに本校の教育活動へのご理解ご協力をいただけると考える。

（２）保護者や地域へのメッセージ

中学生の時期は、一生を考えるとこの時期ならではの豊かな経験となります。しかし、楽しいことや嬉しいことばかりではなく、多感な時期と相まって不安を抱えたり悩みをもったりすることが多くあります。さらに、生徒を取り巻く環境は日ごとに変化していきます。現代社会はその変化が速く、先進技術の発達・国際化・自然災害など予測の難しい時代です。やがて生徒たちは大人になります。様々な経験を糧にし、「人生１００年時代」とも言われるこの時代をたくましく生きていってほしいと願います。私たち大人が、子供たちが将来に夢や希望のもてる世の中のバトンを渡してあげなければなりません。我々教職員は常にそれを念頭に置き、生徒たちが自ら考え、伝え合い、協力して課題を解決していく教育活動を意図的かつ計画的に進めることが最重要課題であり、本校の共通した実践としていきます。未来ある生徒たちのため、学ぶことに魅力が湧く学校づくりを進めてまいりますので、引き続き保護者・地域の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

（３）その他（学校教育活動全般について）

〇防災教育、国際理解教育、情報活用教育など今までになかった分野での教育も進めている。

〇Ｇｏｏｇｌｅ、ＡＩドリルなど、学習効果のあるツールや学習ソフトを活用し、分かりやすい授業の工夫を行っている。

〇特別支援学級を設置し、共に学校生活を送ることで、共生社会への理解を深めることができている。